

Product 002

河村電器産業

自動切替開閉器発売 停電時蓄電設備から電力供給に

配電盤大手の河村電器産業（愛知県瀬戸市、水野一隆社長）は2021年2月1日、停電時に蓄電設備からの電力供給に自動で切り替える自動切替開閉器を発売した。蓄電設備メーカーや住宅事業者などに対し、初年度1万台の販売を目指す。

自動切替開閉器は、主幹ブレーカの一次側に設置するもので、停電時に蓄電設備などの非常用電源による電力供給に自動で切り替える機能を持つ。復電時には

商用電源からの電力供給に再び切り替わる。自動切替機能を持たない住宅用蓄電設備に併設すれば、停電時に切替操作をすることなく、蓄電設備からの電力を使えるようになる。

定格使用電流は60Aで、切替動作開始時間を3秒、1分、6分から選択可能。手動で切り替えられるハンドルも備える。小型化を実現し、分電盤内のリミッタースペースに収まるサイズだという。

なお同社は住宅用蓄電設備

向けの切替開閉器として、16年に手動切替開閉器を発売。19年には主幹ブレーカや分岐ブレーカを一体化した手動切替開閉器の販売を開始している。



自動切替開閉器(左)。ケース入りも用意

Product 001

コロナ

新型エコキュート発売 卒FIT設備所有者に照準

住宅用設備機器製造のコロナ（小林一芳社長）は2021年1月26日、エコキュート（自然冷媒ヒートポンプ給湯器）の新製品を発表した。太陽光発電の余剰電力を効率的に使用できるようにした。FITの売電期間が終了した卒FIT、設備の所有者に訴求していく。

同社は、これまでも翌日の使用湯量を予測して沸き上げる機能を製品に搭載させていたが、太陽光発電の余剰電力の使用は沸き上げ予定量の50%に制限していた。それを今回の新製品では80%へ引き上げた。新製品には

システム)を介して発電量情報や天気予報などから翌日の余剰電力を予測する機能を持たせ、最適な余剰電力の使用量を自動算出する仕組みを盛り込んだ。

技術本部エコ商品開発グループエコ1チームの巖憲介技士補は、「朝お湯を使わない家庭で翌日晴れる場合、予定使用湯量のうち20%を深夜電力で、残りを太陽光の余剰電力で沸かす。朝お湯を多く使う家庭では、深夜電力の比率を高め、余剰電力に頼らない」と説明する。

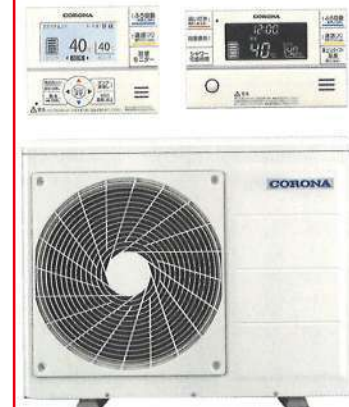
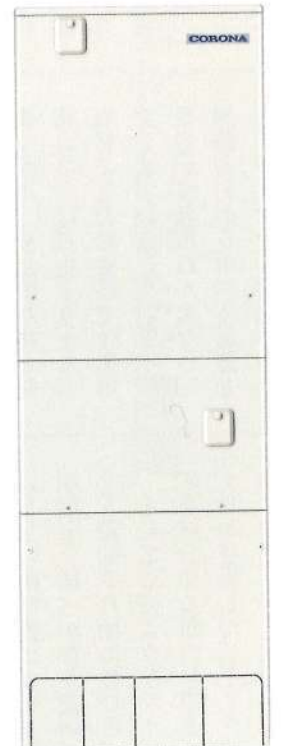
同社が余剰電力の割合を50%に制限していたのは、予想が外れて余剰電力が発生せず、利用

者が昼間の割高な電力を使うリスクや、朝方急にお湯を大量に消費した結果、湯切れが生じかねないリスクを想定したためだ。ただ卒FITの設備の所有者が多数登場し、余剰電力の有効活用を望む声が多く、同社は20年2月に新機能の開発に着手し、21年4月から新製品を発売することにした。

21年度に住宅用太陽光発電の売電単価は19円に引き下げられるため、地域によっては、割安な深夜電力も賦課金と合わせれば、売電単価より高くなる。余剰電力の自家消費率を高める機器として、エコキュートの需要が高ま

るかもしれない。

メーカー希望小売価格は税別60万円台の製品から100万円を超えるものまで複数ある。新製品はHEMSがない家庭でも使用できるが、その場合、余剰電力は沸き上げ予定湯量の50%分しか活用できない。



同社の新型エコキュート

Product 003

リープтонエナジー

高出力パネル発売 182mm角採用で最大600Wに

太陽光パネルメーカーのリープтонエナジー（兵庫県神戸市、周鳴飛社長）は2021年2月1日、182mm角ウエハを採用した太陽



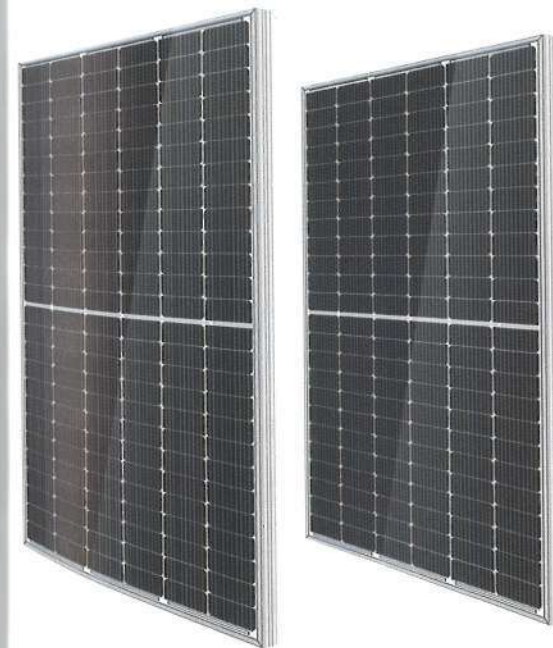
このほど竣工した太陽光パネル新工場には182mm角に対応した生産設備を導入

光パネルの新製品を発売すると発表した。高出力化を実現しており、78セル相当品の最大出力は600Wに及ぶ。

新発売の太陽光パネルは、182mm角の単結晶ウエハが採用され、出力が高い。72セル相当となる144ハーフカットセル搭載パネルは、公称最大出力が535～550Wで、変換効率が20.7～21.3%。78セル相当となる156

ハーフカットセル搭載パネルは、公称最大出力が585～600Wで、変換効率が21.1～21.7%である。

同社は21年1月、中国江蘇省常熟市で年産能力1.5GWの新工場を竣工。今回の新製品も新工場生産する。日本にとどまらず、アジアや欧州、中東、南米などの海外市場にも販売していく方針だ。



リープтонエナジーの太陽光パネル(左)78セル相当品。最大出力は600W(右)72セル相当品。最大出力は550W